

「いのち」の教育実践事例

☆新庄市の実践

(新庄市立日新中学校)

生命の継承の
大切さに
関する教育

— 夢と希望を持ち、思いやりをもってかかわる集団づくり —

生まれてきた自分や相手の命を大切にしながら、自己肯定感を高めお互いを大切にする集団づくりの活動を紹介します。

○ 性教育講演会 実践

酒田市の助産師後藤敬子先生を講師に「性教育講演会」を全校生徒に実施した。受精卵から胎児への成長の様子を年表で見ながら、胎児人形や妊婦体験を通して「生まれてきた命の大切さ」を実感できるような話をしていただいた。また電話相談の対応から「SNSを利用した性被害」について実際に相談を受けたことや「自分や相手を大切にする交際」について熱意あふれる講話だった。そして、「自分なんか」から「自分なんだ」と言い換えることで、自分を肯定して、つらさを乗り切ってほしいとエールをいただいた。

＜生徒の感想から＞

- ・ 受精卵が針で穴をあけたくらい 0.1mm ということに驚きました。生まれる前に体の中で赤ちゃんが呼吸の練習をしていることを知り、驚きました。
- ・ お話を聞いて自分は将来へのバトンをつないでいるのかなと思いました。どんなにつらいことがあっても大切に生きていこうと思いました。

○ 「Let's chatting time」の実践

コロナ禍で交流が制限されて集団活動ができずにいた生徒たちが、生徒会の企画で異学年の生徒のグループを作り交流をする時間をもった。「名刺交換」をしたり、共通の「お題」について答えて交流を深めたりして学年を超えたつながりができた。

1・2年生からは「部活動の先輩以外の人と話ができてうれしかった。」「はじめは緊張していたが、笑顔で話してくれた。」「3年生からは「楽しい時間だった。またやりたい。」「興味を持っていることが同じで話がもりあがった。」という感想が多く、次回の企画を待ち望んでいる様子が見られた。

7 kg の重さに耐えて妊婦体験をお願いしました。

親の言葉の裏には、心配する「思い」が。



人生のスタートは 0.1mm の受精卵から

つま先が見えないし足の爪も切れないなんてたいへんだ。



真剣なまなざしです。

各グループ5~6人で、和気あいあい。

リーダーを中心に、会話を盛り上げていく。

